

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

夢みらい 小川 吉則 森田 充 矢吹 安子 戸崎 克司

(2) 実施日： 2025.7.21～22

【 1． 調査の目的】

(1) 本市における現状

彦根城世界遺産登録を目指し、イコモスによる事前評価を受け、
7/12 に国内候補としての推薦書を提出した。

(2) 本市における課題

彦根城の世界遺産登録を見据えた観光施策における課題は、単なる来訪者増加
だけでなく、持続可能な地域観光・経済活性化の視点から考える必要がある。

【 2． 調査地選定理由】

(1) 調査項目：佐渡市における観光施策の取り組み

(2) 選定地 1：佐渡市

【 3． 調査結果】

(1) 内 容

(1) 観光受け入れ体制の整備

世界遺産登録に伴う観光客増加に対応するため、主要観光地での多言語案内の
整備、トイレ・Wi-Fi・案内所などのインフラ整備を重点的に実施。
観光ガイドの人材確保と研修強化。特に英語・中国語対応の強化が図られている。

(2) 観光分散化・周遊促進策

世界遺産登録により注目が集中する金山周辺だけでなく、島内全域への誘客を促進。
サイクリングルートや里山・海岸線を活用したテーマ別周遊ルートを新たに整備。
デジタルスタンプラリーやアプリを活用した観光分散の工夫も進められている。

(3) 持続可能な観光の推進

自然環境や歴史的建造物の保存に配慮した観光政策を重視。
過剰観光（オーバーツーリズム）対策として観光キャパシティの
モニタリングを実施。
地元住民・事業者との対話を重ねた「共存型観光モデル」を展開。

(4) デジタル・国際戦略の強化

世界遺産登録をきっかけに、海外市場向けプロモーションを強化
海外メディア招致、SNS 戦略、インバウンドツアー造成など。
多言語 Web サイトの拡充やオンラインガイド予約システムの
導入により利便性を向上。

(5) 地域経済への波及促進

登録を契機とした特産品開発、飲食・宿泊施設の品質向上支援。
地元高校生・大学生の観光参加プロジェクトなど、
人材育成と地域内経済循環を重視。

考 察

佐渡市の観光施策は、観光資源の保存と利活用のバランス、地域住民の参画、
持続可能性の視点が非常に強調されていた。特に、トキの保護活動を観光と
結びつけるエコツーリズムや、世界遺産登録を見据えた文化資源の発信力強化は、
全国的にも注目に値する。また、デジタルを活用した発信や移動手段の整備により、
離島というハンディキャップを克服しようとする姿勢がみられた。

世界遺産登録を「ゴール」ではなく「スタート」と捉え、観光と地域の持続的共存を
意識した戦略を段階的に進めていた点が非常に印象的であった。

- ・世界遺産効果による集客だけでなく、島全体の魅力を再発見・発信する姿勢
- ・環境負荷や地域の暮らしへの配慮を前提にした観光施策
- ・観光人材や若者の育成を含めた「観光によるまちづくり」

上記 3 点は本市においても参考となった。

地域資源の掘り起こしと、観光による地域活性化策を再構築していくうえで、
本市も取り組むべきである。

政務活動費活動報告（視察）

(1) 出席者（会派名・個人名）

彦根市議会 会派 夢みらい

出席者 矢吹 安子、森田 充、戸崎 克司、小川 吉則

(2) 実施日： 令和7年7月23日（水） 10：00～12：00

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

彦根市内には4か所の地域子育て支援センターがあり、就学前の子どもとその家族や妊娠中の方等が利用でき、保育士による子育て相談、情報提供、子育て講座等を行なっている。

また、乳幼児のおむつ替えや授乳ができる場所として、「赤ちゃんの駅」が令和7年7月現在で16か所の施設が登録されている。

(2) 本市における課題

就学前の子育て支援と、入学してからは教育委員会が中心となり、子どもへの成長に合わせた一貫した支援が課題と言える。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目 子育て支援（子育ての駅）について

(2) 選定地1：新潟県長岡市 アオーレ長岡西棟4階、子育ての駅ぐんぐん

【3. 調査結果】

(1) 内 容 長岡市子ども未来部 子ども政策課 課長 松木祐子氏

子ども未来部 子ども政策課 子ども政策調整担当係長 馬場紘子氏

長岡市は、子どもの成長に合わせた一貫した支援体制を作るため、平成19年4月、教育委員会に「子ども家庭課」と「保育課」を新設し、子どもの施策を統合。平成23年4月には、教育委員会に「子育て支援部」を設置。4年間の一元的支援体制の実績を踏まえ、教育と子育て支援の充実を図る。また、平成28年4月に「子ども未来部」に改称し、さらなる子育て支援に取り組んでいる。

子育ての駅は、雪国長岡のお父さん、お母さんたちの

- ・冬の時期、子どもを連れて行く場所があるといいなあ・・・
- ・同じくらいの子どもがいる人とおしゃべりしたいなあ・・・
- ・子育てのことで、いろいろ聞けるところがあるといいなあ・・・

等の声から、雪や雨の日でも、子どもをのびのびと遊ばせることのできる子育て支援施

設が必要と考え、創られた。

保育士や子育てコンシェルジュが常駐していて、気軽に相談が出来る「子育ての駅」
現在、13の施設が稼働している。

- ①子育ての駅てくてく
- ②子育ての駅ぐんぐん
- ③子育ての駅ちびっ子広場（まちなか絵本館）
- ④地域版「子育ての駅」 10箇所

従来の縦割りの考え方では、

公園担当・公園内に違う建物を建てることはできないよ

子育て支援担当・市が行う子育て支援のハード整備には補助制度がないから無理だよ
こうなりがち。

しかし、縦割りを統合するのが市町村なら出来る

↓

公園として子育て支援施設を作ろう！

子育ての駅にコンシェルジュを配置！

全ての子育ての駅に、子育てなんでも相談員「子育てコンシェルジュ」を配置。

子育ての駅が災害時には母子の避難所に！

地震などの災害時には、子育ての駅が発災直後の混乱期（概ね72時間）において、
0歳児とその母親・妊婦を主な対象とした「子育てあんしんの避難所」になる。

その他、妊婦から出産・育児まで切れ目のない子育て支援として

- ①長岡版「ネウボラ」の実施

ネウボラとは・男女共同参画の先進国で女性のほとんどが働くフィンランドで
実施されている妊娠・出産・育児を切れ目なく支援する制度。

- ②「父親向け、祖父母向けリーフレット」を配布
- ③子育てアプリ『母子モ（ボシモ）』
- ④子ども家庭応援ブック『おやこスマイルガイド』の作成・配布
- ⑤思春期向け次代の親育成事業
- ⑥長岡市子どもの学力アップ応援事業

を実施している。

(2) 考 察

長岡市では、子どもを中心とした考え方で子どもの成長に合わせた体制を作るため、
教育委員会に「子ども家庭課」と「保育課」を新設し、その後教育委員会に「子育て支援
部」を設置している。

こうした市としての柔軟な発想が、公園内に子育て支援施設を作るという、縦割り行政
ではなかなか難しい施設作りが可能となったのであろう。

また、お母さんお父さんたちの声から、「雨や雪の日でも、子どもをのびのびと遊ばせることのできる子育て支援施設が必要」との考えになり、担当部署の垣根を超えて分野を横断した視点で考え、“雪国の公園“モデルとなる子育て支援施設を作り上げたことは、高く評価されるものである。11万人都市である長岡市で、13か所の子育ての駅が稼働しており毎日多くの利用者と賑わっている。その一つである「子育ての駅ぐんぐん」を見学し、平日にも関わらず多くの親子が利用しており、市民防災の機能が併設されていた。館内にはミニキッチンがあり、離乳食の実演や試食も好評とのことである。

彦根市は財政が厳しく同じようには出来ないが、市民目線・利用者目線に立ち、防災や文化施設との融合、民間施設との共存等その考え方、視点を参考にすることはおいに可能であろうと考えられる。

お金がなければ知恵を出し、部署間の垣根を超えて市民のために考えていくことが重要であろうと思う。